

4 令和7年度 我が校の学ぶ力向上策

【市町 目標】

○新しい価値と可能性を追究する教育を実践し、多様性を尊重し自立できる子どもを育てる

【学校 目標】

○生徒一人ひとりが主体的に学び、高め合い、思いやり、生き生きと活動する教育実践
「未来がどのように変化しようとも対応できる人を育てる」

【現状と課題】

○視点1 全国学力・学習状況調査の結果から、基礎学力の定着を目指した授業改善を行ってきた。学習目標を意識させるために授業で使う指示カードを活用したり、新たな学びに結びつけるための振り返り活動も定着させてきた。また、1人1台端末を積極的に活用し、情報活用能力の育成や個別最適な学びの推進に取り組んできたが、この取組で得られた知見や成果を今後どのように活かし伸長させていくかが課題である。
○視点2 人権学習や道徳の授業により、生徒の自尊感情が高まり、自己の存在感を実感することができるようになってきた。今後も引き続き支持的風土を育てる学習集団づくりを目指して、自己存在感を高める・自己決定の場をつくる・共感的人間関係を育成するという生徒指導の3機能を生かした学習集団の基盤づくりに努める。
○視点3 『切磋琢磨し躍動する学校』をめざして全教職員が共通理解と協力体制のもと、「つながり合い」の実践を通じて、保護者、地域と連携して、生徒が居心地のよい学校づくりを推進してきた。今後もさらにコミュニティ・スクールを活用して「つながり合い」の実践やミドルリーダーを中心とした校内研究を実践していく。

取組事項および評価指標

※評価:【達成状況 90%以上→A 70%以上90%未満→B 70%未満→C 時期→1回目:9月 2回目:2月】

【視点1】学びを実感できる授業づくり			
取組事項	評価指標	1回目評価	2回目評価
①学ぶ楽しさが実感できる授業づくり ①ICT・一人一台端末を効果的に活用した授業の推進 ②体育教育や保健教育の推進 ③主体的・対話的で深い学びの実践（読み解く力の向上） ③読書活動の推進、学校図書ボランティアの活用	①一人一人が大切にされ、学校で学ぶ楽しさを生徒の90%が感じる授業実践	B	A
	②生徒の90%が達成感を感じる授業づくり	B	A
	③生徒の70%以上が自分の可能性を実感し良いところに気づく授業づくり	A	A

【視点2】学ぶ意欲を引き出す学習集団づくり			
取組事項	評価指標	1回目評価	2回目評価
①一人一人が大切にされる学級集団づくり ①互いを尊重し、高め合う学級集団の育成 ①人権教育の推進と自他の命や多様性を尊重する集団づくり ②生徒による自治能力の育成の仕組みづくり ③一人一人が自律し、課題解決への意欲を高める指導	①生徒の90%以上が学級に自分のことをわかってくれる人がいると感じられる集団作り	B	B
	②生徒の80%以上が将来の夢や目標をもっていると自覚できている	B	B
	③生徒の70%以上が、自ら学び、失敗を恐れず挑戦している	A	A

【視点3】子どものために一丸となって取り組む学校づくり			
取組事項	評価指標	1回目評価	2回目評価
①発達支持的生徒指導の推進と生徒の心に寄り添う関りの実践 ①学校と関係機関・地域による包括的な相談・支援体制の充実 ②生徒と生徒をつなぐ仕組みづくり ③地域の特色を生かした教育活動の充実 ③コミュニティスクールとの連携した教育活動の推進	①すべての生徒を支えてこそ学校であると自覚し、教職員が行動している	B	A
	②生徒の90%以上が相手の気持ちを考え、支えあえている学校だと感じている	A	A
	③生徒の90%以上が地域に支えられていると感じる教育の実践	B	A

- 4月の職員会議において、学校のグランドデザインを元に、教育のユニバーサルデザインを推進し、誰もが居心地の良い学校にするために、取り組み事項の共通理解を図る。
- 研究主任を中心に学校組織力の向上を目指したチームマネジメント開発を進めるために、5つのグループによる、ミドルリーダー育成プロジェクトを年間を通じて実施する。
- 教科の枠を超えての授業実践を行うために、授業公開を積極的に実施し、開かれた学校を進めながら、地域や保護者の力もかりて、カリキュラムマネジメントを推進する。
- 学ぶ力向上策においては、年度末の学校評価で、その結果や課題、改善策について再考し、他校の取組も参考にしながら、学校の向上策がよりよいものとなるよう検討する。
- 学期ごとに研究授業を行い、教職員の指導力及び組織的な教育力の向上を目指す。

今年度の取組の成果と課題

「学校でのいろいろな学習や活動、行事などを通して自分らしさや他の人のよさを発見することができた」で、生徒の91.6%が肯定的な回答をしていた。地域と連携し、4小学校区ごとに坂本ふるさと大掃除・下阪本クリーン作戦・日吉台花の町づくり・雄琴ヨシ刈りのボランティア活動を行い、多くの中学生が参加した。

今後の校内研究では、生徒たちが魅力を感じるような学習課題の設定や、その授業実践とはどのようなものなのかを探究する必要があると考える。また、生徒が実際に感じていることを、アンケートなどの調査を通し、より客観的に調べていくことも考えている。